



# 仕事紹介

あいなん仕事紹介 その⑤

【町内で生き生きと仕事をしている方を紹介します。】

## おれんじ薬局 管理薬剤師 松本<sup>のりあき</sup>典昭さん

### 【松本さんのプロフィール】

松山市出身。県外の大学で薬学課程を修了し、国家試験に合格して薬剤師資格を取得。東中予のドラッグストアや病院勤務を経て、転勤で町内の調剤薬局に赴任。

その後、粉川ファミリークリニック院長(当時)の誘いを受けて平成22年におれんじ薬局を開局。管理薬剤師(店舗責任者)として店舗経営に当たるほか、町内複数の小中学校で学校薬剤師を務めて学校の環境衛生の維持管理にも尽力している。



### 医薬品供給や服薬指導が調剤薬局の主な仕事

平成22年に開局したおれんじ薬局(調剤薬局)を経営する松本典昭さん。調剤薬局での薬剤師の主な業務は、医師の処方箋に基づく医薬品の供給(調剤)や、薬の飲み方を教える服薬指導などです。

松本さんは一般の薬剤師としての業務のほか、管理薬剤師(店舗責任者)として医薬品の品質管理や従業員の接客向上などのマネジメント業務も担っています。

### きっかけは先輩の一言 高3の2学期に進路変更

目に見えない香りの仕組みに興味があり、当初は香水などを扱う化粧品会社への就職を考慮して大学に進む予定でした。しかし、高校3年生の2学期に、先に大学に進学した先輩から「資格がないと就職が難しい」という話を聞き、それまで履修していた科目で受験可能な学部を再検討した結果、薬剤師を目指すことを決意しました。

### 資格を取って終わりではない 常に学習の日々

店舗で取り扱う医薬品の数は1500種類にも上り、次々と新薬も開発されます。「一つの薬を覚えるのではなく、その薬がどのように作用するかを理解することが大切」と語る松本さん。3年ごとに更新が必要な研修認定薬剤師の資格を得ることで、医薬品に対する知識を高めています。

### 情報発信に努め、気軽に相談される薬剤師に

調剤薬局の薬剤師には医薬品の知識だけでなく、コミュニケーション能力が求められると話す松本さん。「難しい言葉を使わずに説明し、それがしっかりと伝わった時にやりがいを感じる」と言います。業務で得る感染症などの情報をSNS(ライン)で積極的に発信するなど、身近な薬剤師になることを目指しており、「患者さんとの距離を縮め、何かあった時には気軽に相談される存在になりたい」と今後の目標を語りました。



【所在地】南宇和郡愛南町城辺甲8番地2

【開局】平成22年2月

【スタッフ人数】7人(うち薬剤師2人。経営者を含む)

【雇用形態】正社員、パート

【業務内容】医師の処方箋に基づく医薬品の供給(調剤)、一般用医薬品の販売、店頭および在宅医療・在宅介護患者の自宅訪問による服薬指導など

【開局時間】9:00~18:00(水曜日・土曜日は9:00~17:00)

【定休日】日曜日・祝日

【電話番号】0895-72-7070

※上記情報(数値等)は令和3年2月現在のものです。

おれんじ薬局  
LINEアカウント

